

矢川ってどんなところ？



国立市は地域の賑わいや、子育てを中心とした複合施設「(仮)矢川プラス」の工事を始めました
(2023年オープン予定)



2021.11.1の様子

特定非営利活動法人 子育て支援事業団あじさい園

あじさい保育園

～矢川地域にあるあじさい保育園に

すのう
地域とのかかわりについて数納園長先生に聞いてきました～

開園して5年目になるあじさい保育園。待機児童が多い中、地域貢献がしたいとの理事長の思いで開園。地域に知ってもらえるようにと、当初から散歩ルートに商店街を入れた。商店街のみなさんは温かく迎え入れてくれ、ハロウィン時に仮装をして散歩しているとお菓子を用意し子どもたちに渡してくれたり、コロナ禍で制限はあるものの、グループホームやがわさんに入居されている方々とも交流させてもらったりしている。その中で子どもも自然と社会性が身についているようだ。理事長の思いがしっかりと職員ひとりひとりに伝わり、実践されている様子がうかがえました。



地域の中の保育園 矢川商店街を紹介

谷保から移転し、矢川商店街に店を構えて50年の魚屋「魚善」両隣の八百屋、肉屋と同時に開店。8年間コックをされていた現在の店主が引き継いだ。魚は骨があり、食べづらい！が理由で魚が苦手だった店主は、先代に魚善イチオシのインドまぐろを薦められ「食ったらうまい！！」あまりの美味しさに衝撃を受け、先代から引き継ぐことを決意。インドまぐろは、扱いにくいため置いている店は少なく、市内では魚善のみ。水っぽくなく美味しいので、インドまぐろがあると聞きつけて市外から買いにくる人もいる。

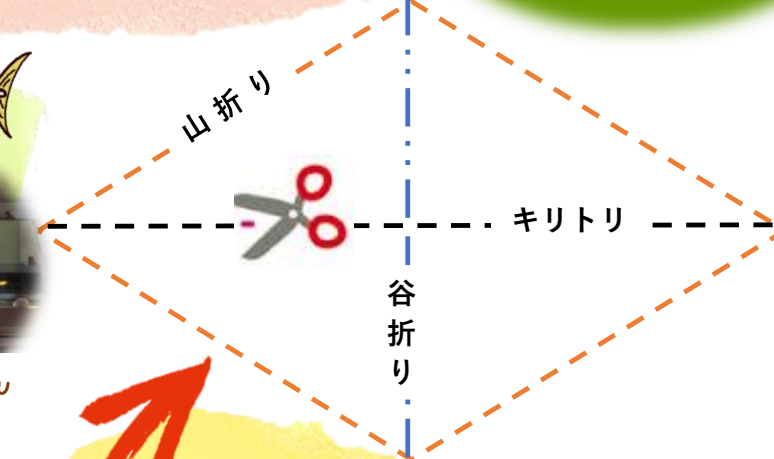
市内の保育園で“魚の解体”を子どもたちに見せている。「一尾の魚を前に、魚の命をいただく話から始まり、目の前できれいにさばいている姿に子どもたちは目をキラキラさせ、その魚が給食で出てくると喜んで食べています。」と保育園の声。普段は切り身の状態で食卓に並ぶ魚も、泳いでいる魚であり骨もあることを伝え、魚嫌いだった子も好きになってくれるのは嬉しい。「保育園の給食で食べた魚がおいしかったと子どもが言うので、同じ魚を買いに来た！」と店に来てくれるお客さんもある。店頭では、「今日の調理法は？」と聞き、その調理法にあった魚を薦めている。さすが元コックの店主、そんなやり取りも楽しめるのがスーパーにない小売店の良さ。人通りが多く、賑やかだったかつての商店街を取り戻したいと語っていました。



第3弾は
さかなやさん！



店主の菊地さん



つくってみよう！

- ①「キリトリ線」を切る
- ②「山折り」を折る
- ③「谷折り」を折る
- ④裏面にしできあがり～

パクパク！！パクパク！！



ここすき！の
友達があそんで
みたよ！

YouTube
QR



ここすき！ 通信
Kunitachi
Kodomo no Yume Mirai

2021年 第5号

社会福祉法人
くにたち子どもの夢・未来事業団



「ここすき！通信」はくにたち子どもの夢・未来事業団
からのお知らせや子育て・幼児教育などを発信する情報誌です

今回のテーマは…



子どもは
ものとの対話の先に
人との対話が始まっています！

おもちゃを舐めたり、感触を確かめたり、心地よさに気づいたり・・・
そこに友達がやってくると、大切なおもちゃを取られまいとギュッとつかんだり、
おもしろさを共感して、ニッコリ笑いあったり・・・と、人との関わりが生まれ
ます。そんな素敵なおもちゃをみつけてみませんか？



宮田 まり子先生
(白梅学園大学 准教授)

創造性を育むことの重要性は、今後ますます高まることが言われています。創造性を育む物(おもちゃ)の特徴に、多様性と応答性の高さがあります。子どもたちが、安心できる大人に見守られながら、自分なりに触れたり操作したりができ、さらにそれに対する変化が感じられるような物と多く出会うことは重要です。手作りの物、生活の中にもある紙や布などの素材や葉っぱや石などの自然物などは、その一つひとつが多様であり、応答性も高く、多くの学びが期待できます。